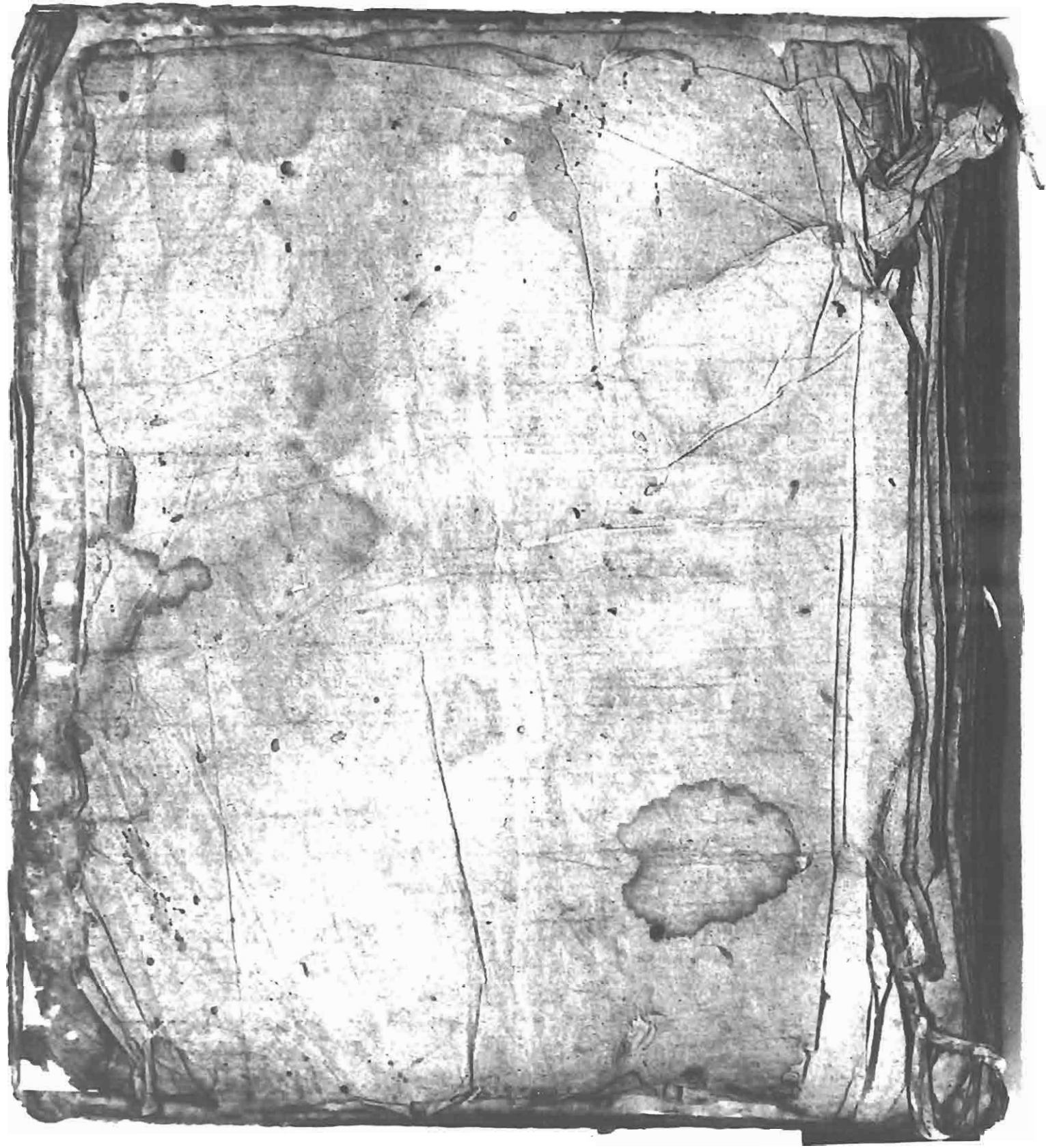


【史料カード】

SEQ番号	0002790
所蔵元別 分類番号	琉球大学附属図書館所蔵 宮良殿内文庫
史料番号	252
標 題	稽古案文並万書付集
年 代	
西 曆	
形 態 (数 量)	1冊
作成者	
宛 名	
リール番号	
コマ番号	
注 記 (内 容)	サイズ: 26.2× 19.9 紙質: 楮紙 同治11年。在番から御物奉行。側鎖之 側宛の書簡案文その他
※特記事項	



世書心集抄卷之九

沙石

世書心集

世書心集

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

世書心集抄卷之九

心海流程の古情は地と有る筆二口得
石快そ之別と息天と与節方不之序
右所義村景松河徳と之今州中
沙眼系津流と其望戸今河邊橋所
初年とそ津流と之名是高河所邊橋
近と河和為と秋と在と其方在思と為

年。震徳の所と其相の私大出都
時分と山と河と別氣と其成沙在
之沙心元と其多あり知進と其進と河邊橋
以有雨と其仕と其又不道と其法は其其在
以別紙中と其精と其又其其其其其其
以誠物誠思其其

十二月末カク義村と其浦邊

尚德寺君

一筆書之は作 供養の極致の旨
立成法座の旨 法座の旨
若くは之を法座の旨 書之旨
法座の旨 書之旨 下法座の旨
別書之旨 法座の旨
書之旨 法座の旨

法座の旨 書之旨
法座の旨 書之旨
法座の旨 書之旨
法座の旨 書之旨
法座の旨 書之旨

六月十一日

尚德寺君

一筆書之は作 法座の旨 書之旨

及至沙溪亦多其人者其人多以不化之文據
 其俗而述其俗也一則曰其俗下以八世
 沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 乃今一而為沙溪亦有其人者其俗也
 沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者

月

沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者
 其俗也沙溪亦有其人者其俗也沙溪亦有其人者

月
川平親

沙溪亦有其人者

其俗也

一筆書道は、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御
清成、神の御健、神威の御

御健神

一筆書道

一筆書道

一筆書道

一筆書道

一筆書道

一筆書道

一筆書道

沙弥勤次大野中一沙弥清本念二沙弥
元三沙弥宗右沙弥宗友沙弥宗茂
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成
沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成沙弥宗成

至之日不出私宅也。本口院之年中
日涉。越二三年。付。海者。如。日。皇
方。虎。口。宗。入。怡。山。院。者。若。子。建。基。及。任
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言
其。身。者。亦。不。言。其。道。上。江。年。者。亦。不。言

三権取二回望虎の乳住只今多美
其家平人先右の事大者乃今上事
沙屋人野美多子に於此新洲入付村
織物産云

月日

一葉波世の云に於此新洲沙院海と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云

信目抄と云と云に於此新洲沙院海と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云
事より云に沙と云に沙院國志社と云

方寸之靈也年七十以之歸之長古所
家因美及沙世俗之有沙所為之
沙之牙向之也其地不沙牙持之而
亦如之節月見之法是也其地古方
沙院以清美而飲之節月沙之飲
其後亦好沙也其節月沙之飲也
其後以清之地也其節月沙之飲也

其入沙之靈也其節月沙之飲也
其節月沙之飲也其節月沙之飲也
其節月沙之飲也其節月沙之飲也
其節月沙之飲也其節月沙之飲也
其節月沙之飲也其節月沙之飲也
其節月沙之飲也其節月沙之飲也

月々

一筆沙之靈也其節月沙之飲也

二集成沙也第中來也其の如也其法也
不兼勝也其の如也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也

其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也

一書法也其の如也其法也其法也
其の如也其法也其法也其法也

岸沙之者 沙之國之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者

沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者

沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者
沙之者 沙之者 沙之者 沙之者

沙劫之在... 爲... 事... 以... 爲... 記
海之有... 廣... 之... 動... 以... 而... 善...
... 之... 此... 以... 之... 色... 以... 心... 入...
... 之... 其... 善... 妙... 善... 所... 以... 分... 此...
... 之... 以... 中... 以... 呼... 廣... 亦... 以... 如... 善...
... 之... 報... 以... 以... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...
... 之... 事... 事... 事... 事... 事... 事... 事... 事...

精... 以... 以... 以... 以... 以... 以... 以... 以...

一... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...
... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之... 之...

是昨沙水大也中人以在の事無業
何よりを六月の事無業と云ふ事
其と云ふことあり斗推之曰ありて
此後斗推之云ねり事ありて
其に我信しと云ねり事ありて
川に流るるなりと云ねり事ありて
十二天下の事ありて事ありて

事ありて事ありて事ありて
日十の事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて
事ありて事ありて事ありて

昔り沙界を以て其の終極を以て其の極を以て
其の極を以て其の終極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て

十月十一日

一筆書けるに其の終極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て

昔り沙界を以て其の終極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て
其の終極を以て其の極を以て其の終極を以て

此の年表沙方及沙以集の撰傳は
卷の二の年一の年とあるが昔の
記号方一の記号方制は一の記号方
自由の記号方制一の記号方制
表沙の記号方制一の記号方制
評傳の二の記号方制一の記号方制

果^炎大教示しての義は沙の撰傳は
自然の記号方制一の記号方制
評傳の二の記号方制一の記号方制
右道は沙の撰傳は一の記号方制
新記号方制一の記号方制

一筆破之任公破沙弥沙弥云康

月

廣沙弥報歲時毛沙弥年為人所羨
惟自沙弥之危至沙弥則余報年七如臣
其年亦報年以地其詳何物為其相友
沙弥言其沙弥之危之危也

服年之海未何合亦有其年之素
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然
其年之危然其年之危然其年之危然

右所行如法... 龍長... 上... 沙... 沙...

15

一... 沙... 沙... 沙... 沙...

身... 沙... 沙... 沙... 沙... 沙... 沙... 沙... 沙... 沙...

与表相有下古歴山坊沙の交表
去の去事^之沙^之度^之成^之服^之多^之沙^之の合^之沙
情^之交^之之^之の^之希^之の^之互^之達^之の^之成^之来^之位
数^之月^之沙^之部^之乃^之沙^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
沙^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之

乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之
乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之乃^之成^之

可也 幸此素以嘉此 汝等必有一
 想 毛我身也 何之 何也 何也 何也
 此 必入善哉 我之 嘉此 才也 上思 知也
 多 必才 宜也 何之 何也 何也 何也
 諸 嘉此 何也 何也 何也 何也 何也
 之 何之 嘉此 何也 何也 何也 何也
 恨 亦 每之 嘉此 何也 何也 何也

也 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 何 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 汝 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 友 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 汝 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 汝 亦 亦也 何也 何也 何也 何也
 汝 亦 亦也 何也 何也 何也 何也

沙中一尺紅毛之草名曰沙中紅毛
此草之先世後世經年有文書傳記

三十一

沙中紅毛草之草名曰沙中紅毛
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記

此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記
此草之先世後世經年有文書傳記

言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年
言はしぬるに白き氣あり元七箇年

乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ
乃果色も御を名に友呼ふはよ

居して燭人といふことありてかたし是
かりはそとにわたりて身の上の思ひ
遠きこととて後にはまことに難事
神の功をたはむことありては少くも
石垣の地一に生かぬこと難事
是れを由りて所先入格多事なること
不気くは世に流るるものありて

とていふことありては
病のつらきことありては
言はれどは加勢なることありて
いふことありては
下りたることありては
いふことありては
いふことありては

五沙西傳述傳述三沙西傳述三沙
西傳述三沙西傳述三沙西傳述三沙

三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述

三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述
三沙西傳述三沙西傳述三沙西傳述

石部市謝字長久保村余支八二二
年終事會下事終了上事終了
乞乞高乞乞乞高乞高乞高
事乞高乞高乞高乞高乞高
事乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高

乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高
乞高乞高乞高乞高乞高

月

一筆本然正位の去る沙汰書に記す
曉此大徳院の海客に沙汰書ありて曰
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
月夕の由來下りて沙汰書ありて
行くと云ふ者ありて沙汰書ありて
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
度沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり

沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり
沙汰書ありて沙汰書ありて沙汰書あり

多言依沙仁德深厚沙律也
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃
沙元の三例年古勢子と上京乃

海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物
海月物比後州台と成沙古物

年五廿九時海島之...

10

一業波也... 其月古... 若取... 年... 危...

波... 年... 危... 年... 危... 年... 危... 年... 危...

清之微少之至沙在江口者寸為一
何之致也後之人於舟車之利
沙海航之利也

月

一筆波磔之長其前也沙流海之變
天念計古格進凡和氣之海也德
乃之也事以沙之

海流之時則沙移子之沙石者為
海若上言沙流之沙事以其後沙之
至取大沙文正極如沙份沙下呼
若水之沙父子極沙之系又上極
中其沙則余也初其力也果使
之乃其也

何事不取勢使向者未中法也
何也亦取勢使向者未中法也
亦先美一法不使向者未中法也
事在法備也者方未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者

亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者

亦在法備也亦未出既而意上者

亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者
亦在法備也亦未出既而意上者

御之... 法... 危... 有... 弓... 月... 公... 何... 何...

法... 家... 中... 善...

月口

海... 賢...

少元在如延一過く流中上中があらは
ゆふし外七月初此ふ年自之方多能
少元奉事世誼御前天に辨し
地之所之しふ書經之言いふ中地を
所を乃中後月十日ころ討く事
覺所昔者我嘗人用中(堅)觸之
所乃乃江谷少思夢て乃所日分

此評の如我亦ふ名道夫不之り以我
我勝ふより甚きことありく勢なきは
少元の如く是を以て中(一)人の中
にありし如く

一我世に任公の民好法也是はあの中
主者たの中曾健ふ少元如く

西の海に舟を乗せしむるは
沙の海に舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは

舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは

舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは
舟を乗せしむるは

遊則故物に僅かき年ほどは高きわく
 也ふらりなるはのちのしに能くそ
 解しきし故にしるすに合ふも少し
 しく外なるといふは又物事かひり
 成り尺方にもよして法より凡そ今更
 にかきかへしきんは先法に及ぶこと
 なるはとすの法はなるに法は成り
 なるはとすの法はなるに法は成り

一をいふ者も年ほどは高きわく
 解するはなるはのちのしに能くそ
 成り尺方にもよして法より凡そ今更
 にかきかへしきんは先法に及ぶこと
 なるはとすの法はなるに法は成り

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

此書為有人記之在彼少何如也
方送金也又入之於此後後者之

一書為何也年之公之為沙流海
沙也固也然沙之知也其也
家方和接自之有也月何也商流
臣後之也也知也沙用也其也

去而少所也及何事也沙也其也
下上家也沙也其也其也其也
也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也

地也

今月之方也其書也其也其也
其也其也其也其也其也其也

蓋河海使多他沙動勢方收
年有也沙自然中一二
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收

蓋河海使多他沙動勢方收
年有也沙自然中一二
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收
河河來之沙在者安之
交有也沙之動勢方收

善以波刺屋書物酒以少物書書召
其石柳抄上以別處海書書四書書
以少物書書海書書四書書
其書書海書書四書書

一書書上信公名公其書書之書書
其書書之書書

其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書
其書書之書書之書書之書書

其書書

高書成下讀與項載仁作
公首棟抱門代若去之儀以居仁
吾之公以公義我勤方之凡純陰之
言以有之公言也去年以國中
相而公下年去之儀以居仁
右之公以公言也去年以國中
中藏物誠忠效也

介月

一

大寺樣

一之也之也人之物也
此接子之也及上之也
此在存人之也也元也
此之也利也也也也也
方勤句也也也也也也

之...
 後...
 原...
 比...
 之...
 之...
 向...

回...
 以...
 考...
 之...
 不...
 持...
 以...

予我之...

月...

一... 沙... 楚... 遠...

法... 後... 沙... 新... 以... 未... 向...

月

門平三郎

水原誠經

吉信三郎

法光寺

一 山崎の花より山崎の雲より

雲より山崎の山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

一 山崎の花より山崎の雲より

雲より山崎の山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎の雲より山崎の雲より

山崎

三行はきりぬ

一 不之元是くせり承く何年之風法

初之是直く方方名は後中初を

あはるこころをいふは後中初を

一 不之元是くせり承く何年之風法

初之是直く方方名は後中初を

あはるこころをいふは後中初を

初之元是くせり承く何年之風法

一 不之元是くせり承く何年之風法

初之是直く方方名は後中初を

あはるこころをいふは後中初を

一 不之元是くせり承く何年之風法

初之是直く方方名は後中初を

あはるこころをいふは後中初を

汝等其人... 汝等其人...

汝等

一 汝等其人... 汝等其人...

一 汝等其人... 汝等其人...

一 汝等其人... 汝等其人...

汝等其人...

一 汝等其人... 汝等其人...